

環境21世紀の会の事業

各種調査研究、政策の提言、行政への請願・各種申し入れ、広報活動及び講演会の実施、共通する他団体との協調・連携——を事業とし、環境との共生を考え、活動しているボランティア団体です。



環境と共生

第4号

平成13年2月1日発行 発行：環境21世紀の会 編集：総務会 有村親雄
住所：〒277-0042 柏市逆井4-9-5 TEL：0471-72-2136 FAX：0471-69-4016

環境21世紀の会会員募集

ひばくする環境問題、生活者の側からどう捉え、どう考え、どう実行に移すかが問われています。会員を募集しています。問い合わせ、申し込みは左記総務会まで。

期待の堆肥化センター

建設コスト、焼却型清掃工場の10%

求められる行政の政策転換

千葉県印旛郡白井町折立に、民間の堆肥化センター「フジコー」が平成十二年九月に営業を開始しました。処理能力は六十ト/日、建築延床面積は二千二百平方メートルで、建設・設備コストは設備費四億三千三百万円（約七百万円/ト）となっています。

同工場の受け入れは、数などの食品廃棄物です。持ち込み単価は一万五千円/トです。現在十ト/日、食品リサイクル法が施行されるため、受け入れ量の拡大が期待されます。原料は、野菜くず、米、



さわやかからは県民プラザで開かれた初の環境問題懇談会

ここで焼却方式と堆肥化方式の設備コストを比較すると、焼却量換算の建設コストは、七十ト/日、約五億八千五百万円/ト（焼却量）といわれ、その他に清掃工場でのランニングコストとして、焼却費と

焼却残渣の埋立処分にも費用が発生します。堆肥化の設備コストは約七百万円/トであり、臭気対策に上積み投資を行っても焼却方式のほぼ十倍です。別の比較計算を紹介いたしますと、柏市の平成十年の実績として、焼却処理量は二百三十五ト/日です。生ごみの組成を約三十%とすると、生ごみの焼却量は約七十七ト/日になります。

ある病院の待合室で、テレビの画像に映し出された、黄色いのが手に悲痛な生産者の顔。有明海の豊かな自然の恵みが、干拓事業で自然形態の破壊による公害であろうと考えるに異音が響いてきた。何事か起こったのかと思っていたら、技術

者らしい人が看護婦さんに事情を説明していた。それは野焼きの煙が空を飛ぶの吸い込み口から入ったとの事。そこで是一件落着き、それで良いのか。行く途中で数カ所野焼きが行われていて、煙でかすんでいた。焼却公

「柏・にわとりの会」は、昨年五月から生ごみを飼料にした鶏のひなを飼育しています。生ごみの資源化に近づく養鶏場から廃鶏対する市民の意識は高くなり、混入物は殆どなく、細かく切ってくれ人もいます。立ち上げ費用はカンパで約百万円。現在回収係六名とその他十名の人が交替で仕事をしています。

食品リサイクル問題で

市議会議員、市民団体と意見交換

環境21世紀の会

環境21世紀の会は、平問題テーマに、熱心に成十二年十一月二十三日、意見交換を行うとともにの午後、柏市内のさわやか自治会やボランティア団

お礼のあいさつを述べたあと、鹿毛副副会長が、政令・省令案などの食品リサイクル法の内容、企業、団体、自治体などの事例、さらに第九回環境シンポジウム2000千

平成一十二年の柏市の一般会計予算は八百五十億円であることからしますと、清掃工場建設費が如何に莫大であるかを示しています。

「柏・にわとりの会」は、昨年五月から生ごみを飼料にした鶏のひなを飼育しています。生ごみの資源化に近づく養鶏場から廃鶏対する市民の意識は高くなり、混入物は殆どなく、細かく切ってくれ人もいます。立ち上げ費用はカンパで約百万円。現在回収係六名とその他十名の人が交替で仕事をしています。

進む自治体、食品の堆肥化

問われる柏市の公設市場

バナナ、たまねぎなどの輸入青果物を対象にした二十日間の京港コンポストセンターが稼働しました。処理能力は十二ト/日、設備費三億七千万円（三千百万円/ト）です。取組の概

要は水分除去と一次発酵を行い、減容化（二・八割、水分四十二%）します。一次発酵品を首都圏各所の生産法人へ運搬して堆肥化します。柏市の公設市場はどのような計画でしょうか。ごみの量は六百六十七ト/日です。一方、野田市の一人当り、五年前と比べ二十四

十二年度から始めた枝や落葉の堆肥化が功を奏しました。一月当たりの排出する円です。市はごみ量の食品リサイクル量は二百五十ト/ト/日となっています。

市民の間では大企業の社員食堂の排出ごみの堆肥化も進んでいます。例えばNEC府中工場、我孫子工場、三菱電機の名古屋工場、富士通川崎工場、本田技研狭山工場などで、これらの工場の食品リサイクル量は二百五十ト/ト/日となっています。

「柏・にわとりの会」は、昨年五月から生ごみを飼料にした鶏のひなを飼育しています。生ごみの資源化に近づく養鶏場から廃鶏対する市民の意識は高くなり、混入物は殆どなく、細かく切ってくれ人もいます。立ち上げ費用はカンパで約百万円。現在回収係六名とその他十名の人が交替で仕事をしています。

資源循環型社会へ実践

生ごみを鶏の飼料に「柏・にわとりの会」

様々な人たちが取り組んで、広がりが深まっています。今年も面白く、粉、かき殻もあげています。その他八百屋の青葉（宮田清子）

今や大きな社会問題となっている環境との共生。私達はこの問題を実際に取り組み活動しているボランティア団体です。どなたでも気軽に参加ください。随時 会員募集中です。年会費(1,000円) 問い合わせは、総務会:有村 ☎0471-72-2135

図1. 柏市多量排出事業者 (厨芥類・汚泥)の排出量

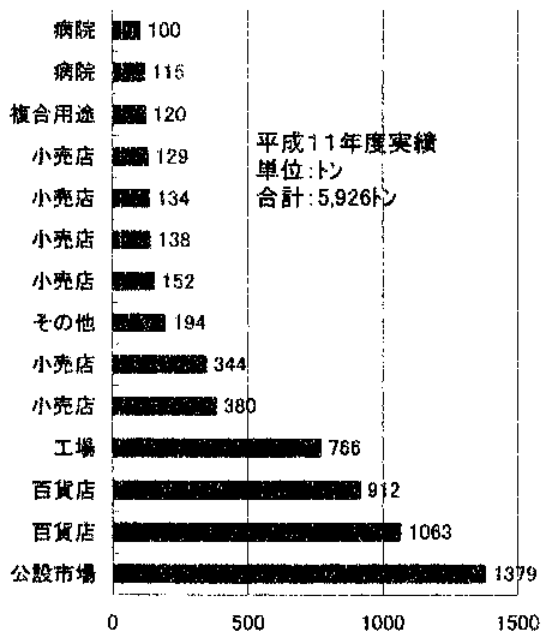
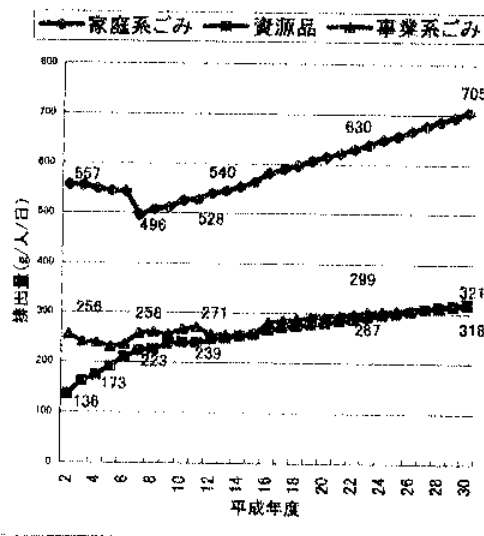


図2. 柏市ごみ排出量実績 (11年度迄)と予測



施策無しの柏市の生ごみ処理の現状

柏市民は、コンポスト容器、EM菌用容器、機械式処理機（平成2～10年実績で7,600世帯）を使用して、生ごみを処理してきました。1世帯350ℓとして、約8割の家庭で利用されていると仮定すると、これによる減量効果は、2ℓ/日と試算されています。

平成13年4月から、食品リサイクル法が施行されます。外食産業やスーパー、コンビニエンスストアなどに調理くずや食べ残しのリサイクルを義務づけられます。食品廃棄物量が1年間に100ℓ以上の排出事業者に適用される方向です。

柏市の公設市場では7月の平均5ℓ/日の生ごみが発生し、11年度の実績で1,380ℓ/年排出されています。従って、来年からは食品リサイクル法の適用を受けます。市民の堆肥化の努力に拘わらず、どこか大きな所で抜けています。

食品リサイクル法の適用を受ける事業系の上位14事業者で17ℓ/弱/日の生ごみが排出されています（図1参照）。その他に上位15位に学校関係で70ℓ/年、学校関係全部58校では310ℓ/年になります。

家庭系の枯草や剪定枝を堆肥化すれば、更に8ℓ/日が減量化されることになります。柏市の生ごみ処理基本計画には、これらの施策は一つも入っていません。ごみ処理基本計画と清掃工場の建設計画を根本的に見直す必要があります。

柏市のごみ処理計画はデータ処理で改ざん

図2から分かるように、事業系ごみは平成2年度以降11年度までは横ばいです。資源品は明らかに毎年増加しています。しかし、資源品を除く家庭系ごみは増えていません。家庭系ごみの平成2年度の実績は557ℓ/人/日です。その後、少しずつ減少して平成7年度は496ℓ/人/日になりました。平成7年度を底として、今度は少しずつ増えて平成11年度は528ℓ/人/日となりました。しかしながら、平成2～11年度の平均は532ℓ/人/日でごみ量は増えていません。

柏市は、平成7年度の低い異常値を採用して平成11年度までの5年間実績を採用して作為的にデータを改ざんしています。その結果、右肩上がりのごみ増量計画になっています。過去5年間の実績で、平成30年度までの18年間の予測をしています。事業系ごみの平成11年度の実績は271ℓ/人/日で横ばいです。国のごみ焼却設備補助金の場合には、完成年の7年後という規定があります。従って、平成22年

までの予測で計画しなければなりません。ここにもウソがあります。このことは補助金適正化法に抵触しています。

産業界にあっては、将来に向けて事業の長期計画を策定します。

土地の場合は、かなり不確定要素があっても先行投資をするのが一般的でした。しかし、建物及び機械設備については、計画段階としては大きくても、実行段階では、精度の高い市場の需要予測をして精々2～3年先、長くて5年先を目標において設備の投資をするものです。

ごみ焼却設備の場合、国の規定では7～10年先をみて設備投資をすることになっていますが、柏市の場合、18年先を考えて実投資を行うとしています。借金財政の中でお金をどぶに捨てるようなものです。また、技術の陳腐化にどう対応するのか。21世紀になっても従来型の公共投資のままでよいのでしょうか。

編集後記

★柏市ごみ処理計画のデータ処理の改ざんについて紹介した。世の中でこんなウソのはっきりしたものはない。柏市の関係者はどんな神経の持ち主だろうか。

★食品廃棄物のリサイクル特集号として、東京港、野田市、民間などの実例を紹介した。柏市の実情と比較してもらいたい。(Y. S)

<お礼>

環境21世紀の会としてはじめてのバザーを開催したところ、多数の方々から物品の提供があり、心から感謝申し上げます。またお買い上げ頂いた方々にもお礼申し上げます。どうもありがとうございました。